

## 音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受する活動を通して、 自らの感じ方を広げ、深める音楽科の学習

### I 音楽科研究の方向性

#### 1 主題設定の理由

音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することなどに重点を置いて、その充実が図られてきました。新学習指導要領においては、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを考えたりしていくことなどについて更なる充実が求められています。

前研究では、「音楽の捉え方を自分なりにもち、思いや意図を明確にして、豊かに表現する音楽科の学習」をテーマに研究を進めてきました。音楽表現への思いや意図を明確にすることで、児童は音楽の学習に意欲的に取り組み、音楽を学ぼう、吸収しようという主体的な姿が見られました。また、音楽フェスティバル等の行事においては、生き生きと表現したり、他学年の表現を味わって聴いたりする姿が見られ、音楽を主体的に表現・鑑賞する力が育ってきていると感じました。前研究の成果や本校の児童のよさを更に伸ばすためには、学習過程に工夫を加え、楽しむ質を向上させたり、音楽を身近に感じさせたりすることが大切であると考えます。

以上を踏まえ、研究主題を「音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受する活動を通して、自らの感じ方を広げ、深める音楽科の学習」と設定しました。「音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受する活動」とは、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を聴き取ったり、それらの働きが生み出すよさなどを感じ取ったりする活動です。「自らの感じ方を広げ、深める」とは、友達と、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、感じ方を共有・共感することを通して、自分と異なる感じ方を自らの感じ方に生かしたり、自分の感じ方との共通点に気づき、自らの感じ方や感じ方のよりどころとなった根拠を見直して明確にしたりすることです。

#### 2 目指す児童の姿とその具体

##### 自らの思いや意図を大切にしながら、「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」を追求する児童

「自らの思いや意図」とは、音楽を聴いたときに感じた、「こういう表現をしたい。」という願いや、「こんな理由で、こういう表現にしよう。」といった、根拠を必要とする考えです。「自らの思いや意図」を大切にすることが、探究的な学習の原動力になります。

「『音楽表現』を追求する」とは、知識や技能を得たり、生かしたりして、思考を伴った試行錯誤を繰り返しながら、「自らの思いや意図」を実現するような表現の活動に取り組むことです。

「『音楽のよさ、美しさ』を追求する」とは、自分なりに曲や演奏のよさや美しさを考え、言葉で表しながら交流するなどして習得した知識を踏まえて、音楽的な根拠を基によさや美しさを見いだす鑑賞の活動に取り組むことです。

## II 研究内容の具体

### 1 音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受する題材構成の工夫

児童が自らの感じ方を広げたり深めたりするためには、題材を通して、音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受して、他者と共有・共感することが大切です。そのためには、表現と鑑賞の関連を図った題材計画を立案して、双方の活動の要となるような音楽を形づくっている要素を焦点化し、明確にすることが必要です。そこで、音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受しながら学ぶための題材構成の工夫について明らかにしました。

#### ○表現領域と鑑賞領域の関連を図った題材の構成

- ・題材で扱う音楽を形づくっている要素を明確にし、2つの領域をつなぐ。
- ・表現領域と鑑賞領域の組み合わせ方を考える。

#### ○題材計画例

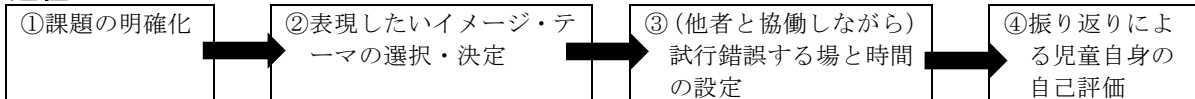
- ・題材：第2学年「おまつりの音楽」全3時間＋「音のスケッチ おまつりの音楽をつくろう」全3時間
- ・音楽を形づくっている要素：リズム、音色

第1次		第2次	第3次		
第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
B鑑賞「日本のたいこ」①	B鑑賞「日本のたいこ」②	A表現（歌唱）「村まつり」	A表現（音楽づくり）「おまつりの音楽 マイリズムづくり」①	A表現（音楽づくり）「おまつりの音楽 マイリズムづくり」②	A表現（音楽づくり）「おまつりの音楽 マイリズム発表会」
鑑賞することを通して、太鼓などの様々な楽器の音やリズムに興味をもつ。		歌唱では、太鼓や笛の音の特徴を生かした工夫をしたり、お祭りの楽しい雰囲気を出したりして歌う。音楽づくりでは、太鼓の音色をまねてリズムを口唱歌し、「村まつり」にぴったりのマイリズムをつくる。			

### 2 「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」の追求を支える指導の工夫

児童が自らの感じ方を広げたり深めたりしていくためには、音や音楽と出会ったときの自らの思いを大切にしながら、「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」を追求していくことが大切です。そのためには、表現したいイメージやテーマを自分で決めたり、他者と協働しながら学んだりすることが必要です。ここでは、児童の「音楽表現」や、「音楽のよさ、美しさ」の追求を支える指導の工夫について明らかにしました。

#### ○思いや意図を大切にしながら「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」を追求していく学習過程



#### ○表現したいイメージ・テーマに応じた選択肢の工夫

【表現したいイメージ・テーマの選択肢の例】

- ・歌詞の節
- ・絵や写真（情景）
- ・感情

#### ○他者と協働して課題を解決するためのグルーピングの工夫

- ・表現したいイメージに応じたグルーピング
- ・習熟度を考慮したグルーピング

### 3 学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫

児童が自らの感じ方が広がったことや深まったことを実感するためには、自らの学習を振り返ったり、互いの学習成果を友達と認め合ったりすることが大切です。ここでは、学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫について明らかにしました。

#### ○自らの課題を改善させていくための自己評価

- ・ロイロノート・スクールのテキストカードに自己の振り返りを記入し、保存・蓄積することで、これまでの自分の学習状況を振り返りながら、今後の学習につなげる。

#### ○一人一人の児童の力や個性を生かし、ともに成長するための相互評価

- ・ロイロノート・スクールのテキストカード（付箋機能）を利用し、友達の表現や考えの「よいところ」や「よくするアイデア」を、付箋紙の色を変えて書き込み、送り合う。

### < 2年次研究の重点 >

- ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受する題材構成の工夫
- ・「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」の追求を支える指導の工夫

### Ⅲ 研究実践

## 2年生実践 『くりかえしと かさなり』

実践のテーマ：他者と協働しながら、音楽を形づくっている要素を生かして  
表現する音楽科の学習

### 1 研究授業のねらい

本題材では、音楽を形づくっている要素として、主に、速度（の変化）、音の重なり、反復の3つの要素が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の楽しさを見いだして聴いたり、曲想を感じ取って表現を工夫したりすることをねらいとしました。まず、鑑賞の学習として、「しゅっぱつ」を扱いました。走る汽車の様子や、乗っている子供たちの思いを想像して聴き、速度の変化や音の重なりに気付かせる学習を行いました。次に、表現の学習として、「汽車は 走る」を扱いました。前時に扱った「しゅっぱつ」と関わらせながら、想像した汽車の様子を演奏につなげました。その際、前時で確認した音楽を形づくっている要素に着目させるために、旋律を反復しながら、速度を変えたり、声や音を重ねたりすることで、表現の面白さを感じ取れるようにしました。なお、反復については、児童が「汽車は 走る」（反復なし）を聴いたときに、「これでは短いから曲（旋律）を反復しないと表現できない。」という発言があり、他の児童も同じ思いだったことから、どのグループも曲（旋律）を反復させた上で表現することにしました。

### 2 題材の指導計画（3時間扱い）

次	時	ねらい・学習内容・ 学習活動	評価規準・ 記録に残す場面 (評価方法)	感性と知識・技能とを 融合させて学ぶ児童の姿	音楽を形づくっている要素（主なもの）		
					ア	イ	
第一 次	①	○「しゅっぱつ」を、楽器の音や、旋律や速度の変化に注意して聴く。  ○「汽車は 走る」を歌う。	思一① (記述, 発言) 知一① (発言, 記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しゅっぱつ」を、旋律や速度の変化などと、曲が表す情景や心情を関わらせて聴いている。</li> <li>・「汽車は 走る」を、どのように工夫するとイメージした汽車の様子を表すことができるかについて、「しゅっぱつ」を鑑賞したときに気付いたこと（音楽を形づくっている要素）を生かしながら考えている。</li> </ul>	・速度 ・音の重なり	・反復	
	「汽車は 走る」を、汽車が走っている様子が伝わるように表そう。						
	② (本時)	○前時の学習を想起する。 ○「汽車は 走る」の表現を、前時に考えた内容を基に、グループごとに話し合い、練習する。 ○活動を振り返る。	思一② (発言, 記述) 主一① (発言, 観察)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分（たち）の思いを表現するための工夫を、反復、音の重なり、速度など、音楽を特徴付けている要素を基に、他者と協働しながら考え、声や音、動きで表そうとしている。</li> </ul>	・速度 ・音の重なり	・反復	
③	○前時に続き、「汽車は 走る」のグループ練習をする。 ○グループごとに発表をする。	技一① (聴取)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声などを聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。</li> </ul>	・速度 ・音の重なり	・反復		
「反復」や「速度」、「音の重なり」など、音楽のもと（音楽を形づくっている要素）に注目して表現を工夫することで、汽車が様々な走っている様子を表すことができるね。							

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

「汽車は 走る」を、音楽を形づくっている要素を基に、グループで話し合い、練習に取り組むことを通して、声や音でどのように表したいかについて思いをもち、楽しみながら表現しようとすることができる。

#### (2) 本時の展開（3時間扱いの2時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1 前時の学習を想起する。 ・「しゅっぱつ」を聴いたとき、音楽のもとをつかって、曲の特徴について交流したよ。 ・速度や音の重なりに注目して聴いたよ。 ・「汽車は 走る」を表すときは、曲が短いから、反復させることになっていたね。  2 本時の学習の課題を確認する。 「汽車は 走る」を、音楽のもとをつかって、汽車が走っている様子が伝わるように表そう。	・「音楽のもと」は授業内で使用している言葉であり、「音楽を形づくっている要素」と同義である。
3 「汽車は 走る」の表現の工夫を、前時に考えた内容を基に、グループごとに話し合い、練習に取り組む。 ・速そうな汽車だから、速い速度で歌おう（動こう）。 ・坂を上っていくとスピードが下がるから、ゆっくり歌おう（動こう）。 ・煙がいっぱい出ているから、歌に楽器の音を重ねて煙が出ている様子を表そう。  4 ロイロノートで教師から送られた、他グループの表現を見て、工夫点を見付け、参考にする。 ・踏切の前を走る様子を表すために、旋律に、踏切の音を表すような声（楽器の音）を重ねて表現してみよう。 ・汽車がスピードを上げてどんどん進む様子を表すために、繰り返していく度に速く表現してみよう。	◇「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」の追求を支える指導の工夫 <b>研究視点2</b> ・同じ汽車の写真を選んだ児童と協働しながら表現を考え、試すことで、新たな考えに気付いたり、自分と同じような考えをもつ児童がいることを実感したりできるようにする。 ・タブレットでロイロノートを使い、撮影したデータを見て、様々な表現を試しながら取り組ませる。  ◇学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫 <b>研究視点3</b> ・タブレットを活用してグループ活動を進めることで、児童が自分（たち）の表現を客観的に確認し、よりよい表現につなげる。 【主一①】「汽車は 走る」の曲想を感じ取って表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。（発言、観察）
5 学習の振り返りをする。 ・(写真の汽車は速く走っているように見えたから、)友達と協力して、速い速度で表すことを頑張った。 ・〇〇さんは、煙がたくさん出ている様子を、□□の楽器で表していた。自分には思い付かない考えだった。  ・音楽で表す速度（の変化）が、汽車が走る速さ（の変化）を表しているみたいだね。 ・音の重なりを工夫することで、汽車が走るときに聞こえるような様々な音を表せるね。	◇学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫 <b>研究視点3</b> ・ワークシートを活用することで、児童自身の学びを振り返るとともに、他者のよさにも目を向ける。 【思一②】「汽車は 走る」の反復、音の重なり、速度などの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。（発言、記述）

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

- ・自分（たち）の思いを表現するための工夫を、音楽を形づくっている要素を基に考えようとする児童の姿
- ・他者と協働し、試行錯誤しながら、思いに合った表現を考える児童の姿



## 4 授業の実際

### 音楽を形づくっている要素を知覚・感受する題材構成の工夫

本題材では、まず、「しゅっぱつ」を鑑賞し、感じ取った曲想を基にしながら、曲想を生み出している、音楽を形づくっている要素に目を向けるようにしました。そして、それらの要素を生かしながら、「汽車は 走る」で、自分（たち）の思いを表現する学習につなげました。

A児は、「しゅっぱつ」を鑑賞した際、最初は反復に目を向けて曲の特徴を捉えていました。その後、友達と意見交流したことで、音の重なりにも目を向けるようになりました。最終的に、「汽車は 走る」を表現するときには、反復を生かしながら、汽車が走るときの様々な音が聞こえる様子を表すために、煙が出る音をマラカスの音で表そうとするなど、音の重なりをよりどころとして表現しました。

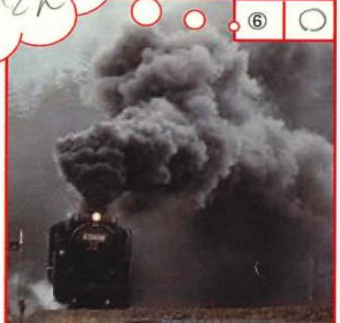
ようす	ぶーりゆう	音楽のもと
はっしやしているようす	汽車の音が「しゅっぱつ」	はっしや
	（この音も聞こえる）	

↓  
(音色もそうかな)

【A児のワークシート（「しゅっぱつ」鑑賞時の気づき）】

⑥番の汽車は、（何）もんな音が「たてえそ」なようすだから、  
「汽車は 走る」で、おとしのかわりに （何）もんな音 を （何）もんな音 作って（のように）してあらわしたいな。

まくもく  
がわんごん



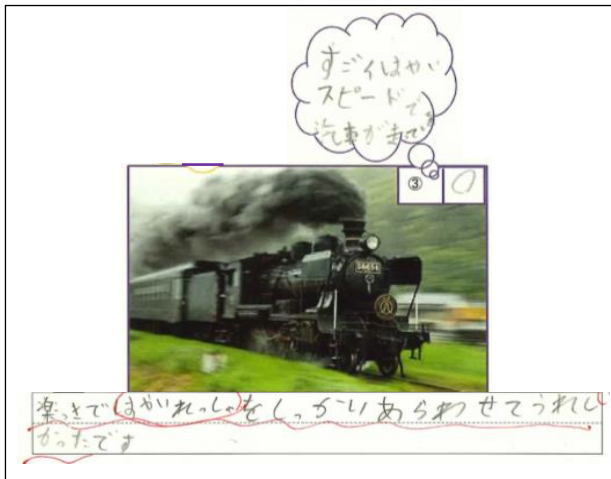
【A児のワークシート（「汽車は 走る」を表現するときの思い）】

### 「音楽表現」や「音楽のよさ、美しさ」の追求を支える指導の工夫

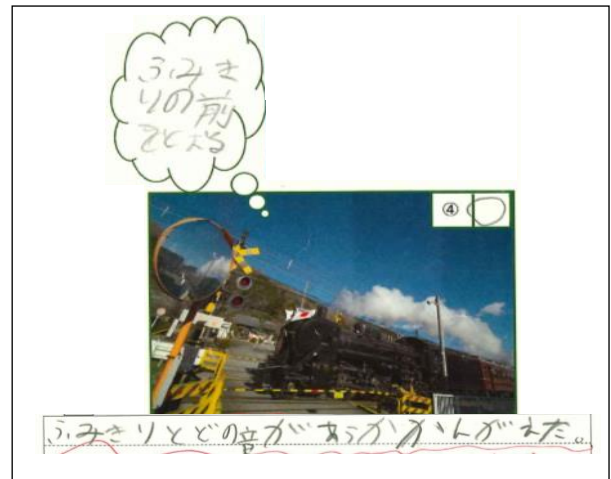
本時の学習では、「音楽表現」の追求を支える指導の工夫として、児童自身が表現したいイメージを選択するための選択肢を設定しました。また、他者と協働して課題を解決するために、複数の選択肢から同じものを選んだ児童同士でグループをつくりました。

選択肢として、異なる様子で汽車が走る写真を6枚提示しました。児童は、それぞれの汽車がどのような様子で走っているかをイメージし、表現してみたい汽車を一人一つ選びました。そうすることで、自分の思いを明確にもちながら、表現することができました。B児・C児の記述からは、自分が選んだ写真の汽車が走る様子を思い浮かべて、それぞれ、速度と音色を工夫して表現したことが分かります。また、同じ写真を選んだ児童と協働して取り組むことにより、自らの感じ方を広め、深める姿が見られました。D児の記述からは、友達から、マラカスを鳴らす速度を速くしてはどうかなどというアドバイスももらったことが分かります。D児は、友達からもらったアドバイスをもとに、表現の工夫をすることができました。

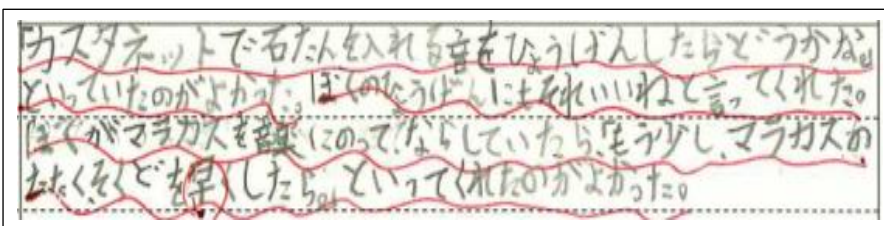
一方で、教師が設定する選択肢が多く、演奏の比較が難しい面がありました。また、「速度」「音の重なり」「反復」以外の音楽を形づくっている要素のみをよりどころにしながら表現しようとする児童がいました。選択肢の適切な数と内容について、考えていく必要があります。



【B児のワークシート】



【C児のワークシート】



【D児のワークシート】

## IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では、「音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受する題材構成の工夫」「『音楽表現』や『音楽のよさ、美しさ』の追求を支える指導の工夫」を重点として、研究を進めました。

### 1 研究の成果

- 鑑賞の学習から表現の学習につなげたことで、児童が聴き取った、音楽を形づくっている要素を基に、自分（たち）の表したい音楽について思いをもち、表現することができました。
- 児童が選択肢の中から表現してみたいものを選ぶことにより、表現する曲は同じでも、一人一人が曲のイメージを思い浮かべ、自分の思いを明確にもちながら、表現することができました。
- 同じような思いをもつ他者と協働して取り組むことにより、自分一人で試しの演奏をしている中では気付かなかったような工夫点を友達からアドバイスしてもらうことができ、自らの感じ方を広め、深める姿が見られました。

### 2 今後の課題

- 題材構成の工夫として、児童が音楽を形づくっている要素の働きを知覚・感受しながら学習に取り組めるために、題材内で表現及び鑑賞の教材をどのような流れで取り上げていくことが効果的なのか、更に検証する必要があります。
- 児童が選択肢の中から表現してみたいものを選ぶ際の選択肢の数や内容が適切なものとなるよう、題材の目標や発達段階に合わせて、更に検証する必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省 東洋館出版社 平成30年2月
- 初等教育資料 No.983 「音楽科における『知識及び技能』の育成を目指す授業づくり」 文部科学省 東洋館出版社 令和元年7月
- 初等教育資料 No.997 「[音楽] 資質・能力の育成に向けた題材構想と授業づくり」 文部科学省 東洋館出版社 令和2年9月
- アクティブ・ラーニングの学習評価 田中博之 学陽書房 平成29年3月
- 平成29年版 小学校 新学習指導要領 ポイント総整理 音楽 山下薫子 東洋館出版社 平成29年10月
- 小学校 新学習指導要領の展開 宮崎新悟・志民一成 明治図書 平成29年11月
- 音楽鑑賞教育 Vol.41 公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 令和2年4月